

# また会えたね！ 春燕

4月10日の朝、清瀬駅付近で空を見上げると、スーッと滑空するように飛ぶ鳥の影があり、しばらく目で追って待つと、電線に泊まりました。双眼鏡を取り出して見てみると、頭が赤いツバメでした。今年初めての観察です。例年は3月下旬頃から姿を見かけますが、今年は少し遅めのようです。ツバメは、春に東南アジアからやってくる渡り鳥で、春から夏にかけて日本で繁殖をする夏鳥です。冬鳥として大陸の北からやって来て、春に帰ってしまうツルとは逆の行動ですね。



R7,4,10 清瀬市

## ●ツバメ スズメ目 ツバメ科

## 「つちくって、むしくって、くちしぶい」



R7,4,10 清瀬市

大きさはスズメくらいで、「のど」と「おでこ」が赤く、「お腹」が白色、黒い首輪をしていて、何より、長くて、深い切れ込みになっている二股の尾羽が目立ちます。雄と雌との違いはほとんどなく、尾が長めなのがオス、短めがメスです。翼を広げると30cmほどあり、細い体と合わせて飛行能力は高く、急旋回はお手のもので、飛んでいる昆虫などを空中で捕まえて、食べています。歩くのは苦手で、電線に止まっても横移動などはほとんどしませんし、地面を歩いている姿は、まったく見かけません。水も飛びながら補給します。空堀川などでバードウォッチングをしていると、水面ギリギリに飛行しながら、サッと、口ばしを水に入れて飲んでる姿を見ることができます。



## ■冬は南国で過ごし、春に戻って日本で子育て

春から夏に、フィリピンやマレー半島などの東南アジアからやってくる夏鳥で、日本で巣を作って子育てをして、冬は暖かい南の国で過ごす渡り鳥で、小さい体で3000km以上も毎年移動をしています。

昔から、毎年同じペアで、同じ巣を使って繁殖をすると、言われていますが、実際に調査をしてみると、同じ地域に戻る傾向が強く、その中で、確かに同じ相手とペアになる場合もあるそうです。

雄はチュチュピチュピジクジクビーと、最後が濁るような声でさえずります。「つちくって、むしくって、くちしぶい」を早口で読むと似ています。

## ■お家は、泥と草でつくります。

古い巣を確保できなかったペアは、軒下などに、土と枯れ草で新たに巣を作って雛を育てます。清瀬駅付近のビルの駐車場で、新たに巣作りをしている姿を見かけました。ひと季節で2回ほど繁殖をされると言われています。

## 《中華料理「燕の巣」は、ツバメの巣ではない！》

中華料理の食材として使われる「燕の巣」は、ツバメ（スズメ目ツバメ科）の仲間とは異なる、アナツバメ（アマツバメ目 アマツバメ科）が、唾液などで作った巣です。分類上では「目」が違うので、かなり遠い関係です。



R7,4,30 清瀬市



R7,4,30 清瀬市



R7,5,1 清瀬市